

# 健康平和研究

## 20年第5章 日・米・宇宙

政治不安定？ 1 偽善性 3 アフター・コロナに 4

20年9月15日号より

(や＝山田 学)〔☆☆☆政治不安定？☆☆☆  
☆安倍首相辞任表明。首相の念願であつた「憲法改正」も、実現しませんでした。JOMON  
あかでみいサイトは、安倍首相とは別の立場  
から、2006年8月に、「日本国新憲法案」を公開してをります。(「理念集」画面) また、201  
5年6月全面更新の〈生産発達の本質そして恵  
まれた日本列島から次の社会を〉(「店頭」画面)  
内に、かう書きました。〕

(〈生産発達の本質〉19ページより)〔日本国は  
米国・中国・露国などとの外政関係、すな  
はち情報戦・外交・軍事・通商貿易・金融  
政策をどうしていくか。これについて日本  
国は、かの幕末・維新时期より重大な判断・  
決断・執行を迫られてくるでせう。それと  
いふのも、幕末・維新时期の志士たちの活動  
の背後に実は、英国などの情報戦による支  
援があり、日本民族として自立した体制変  
革ではなかつたからです。しかし今回は、  
いよいよ、日本民族として自立した判断・  
決断・執行が迫られてきます。そのための  
能力ある人格がとても少なく、しかも社会の  
あちこちに分散してをり、まだ組織されて

るません。まづ、かういふ危機にあること  
を、日本国民は早く自覚する必要があります。

まづ、諸事態をなるべく平和に進めるため  
にも、情報戦です。信長・秀吉・家康のこ  
ろや、戦中の陸軍中野学校など、日本民族  
にも優れた情報戦能力があつたが、今は世  
界の実状に比べ、著しく遅れてゐる、と聞  
きます。世界の実状を知るある方から、か  
ういふ意見を聞きました。すなはち、「日  
本国はまづ、諸国家・諸組織の情報機関に  
よる情報を高額の金銭により購入せよ。」  
それにより、世界の情報戦の実状のとてつ  
もない厳しさを自覚することから始めよ、  
といふことでせうか。

そして憲法改正について言へば、〈現行憲  
法の当初の平和思想をさらに現実的に強化  
する方向の憲法改正〉こそが、必要であり  
ませう。70年前とは異質な世界情勢(水面  
下に封印された内実を含む)にまともに対  
応しつつ、現行憲法の当初の平和思想をさ  
らに強めた、〈公会創造事業〉を保護し推  
進するためです。新しい日本国は、統治(外  
交・通商貿易・金融政策・軍事・治安警  
察)の自立と行政(それ以外)の地方分権  
化が必要です。逆に尋きます。すでに内閣  
法制局などが黒に近い灰色に「解釈」した  
現行憲法にて〈健康平和理念〉を守りうる  
か？ 2千5百年前に東アジアにて規範と概  
念を整理した孔子が、善い意味においても

悪い意味においても、わたくしどもの健康  
平和研究の対象にございます。〕

(や)〔その後わたしどもは、この文中の〈公  
会創造事業〉への関心を高め、政治活動より  
も、非政治活動に、関心の重点を置いてま  
りました。新型コロナ対策で、ともかく、財  
政出動などをしすぎてゐますから、日本国債  
が信用低下していくことも必至です。いつれ  
再び、わたしどもが、(憲法問題を含む)政  
治活動への関心を高めることも、ありませう。  
再び政治不安定となるかもしれない入口にあ  
たり、わたしどもの過去にも、言及させてい  
ただきました。〕

20.11.16.より

(や)〔☆☆☆偽善性☆☆☆今ひとつ、わか  
りにくい、米大統領選。

バイデン氏が当選確実。

が、トランプ氏にとり、“法廷闘争”は、あ  
らかじめ織り込み済みだつたやうで、単純に  
は、敗北宣言をしないかもしれません。

わたしどもは、トランプ氏の政策には、限界  
があると考へます。が、クリントン氏夫妻や、  
オバマ氏・バイデン氏らにある、ある意味の  
偽善性を、鋭く突いたからこそ、日本人には  
よくなじめない〈トランプ熱狂〉も、継続し  
てゐるのだと、思ひます。

この先、どちらかと言へば、バイデン氏より  
も、民主党内のサンダース氏的な動きに、注  
目したいと、わたしどもは、考へます。〕

20.6.15.より

(や)〔☆☆☆アフター・コロナに☆☆☆☆学  
研プラス『ムー』2020年7月号No.476の102～  
105ぺに、並木伸一郎のフォーティアンフェ  
イル第19回「ペンタゴン公認のUFO映像を公  
開!!」といふ記事があります。『ムー』の記事  
だからと言って、軽視できません。米国のペ  
ンタゴンや、日本国の河野防衛大臣の、事実  
が紹介されてゐます。〕

(記事より)〔今年4月27日の正午、UFOの  
文字がテレビのニュース画面に踊り、翌日  
の新聞紙面を飾った。米国防総省＝ペンタ  
ゴンが、米海軍戦闘機によって撮影された  
UFO映像を“本物”と認め公表したのだ。  
この映像については、ペンタゴンに先だっ  
て2019年9月10日、米海軍の公式報道官ジ  
ョセフ・グラディシャーが、「映像自体は  
本物だ。映っているのは“未確認飛行物体  
”である」と明言したことは、以前本誌で  
も紹介したとおりである。今回の発表は、  
それを踏まえてペンタゴンまでもが公式に  
認めたことになる。〕

映像自体は、ロックスターのトム・デロン  
グ率いる公益法人「トゥ・ザ・スターズ・  
アカデミー・オブ・アーツ (To The Stars  
Academy of Arts. 以下TTSAAS) が、20  
17年12月から翌2018年3月にかけて、自身  
のホームページで一般公開しており、目新  
しいものではない。

しかし、ペンタゴンが公認したという事実  
が、UFO史に新たな歴史的1ページを刻み  
こむことになったといえる。

そもそもTTSAASとは、トム・デロングと  
ペンタゴンの「UFO極秘計画」にかかわっ  
ていた元職員のルイ・エリゾンドを中心に  
結成された団体で、彼らは元CIA職員やペ  
ンタゴンの情報担当次官補佐などの専門メ  
ンバーとともに、政府が掴んだ情報を探り、  
UFOの真実を追求するなど積極的に活動し  
ている。

今やペンタゴンの目の上のタンコブ的存在  
になっているが、今回の発表の裏で、少な  
からず影響を与えたとも伝えられているの  
だ。

(中略)

飛行物体の正体はさておき、あのペンタゴ  
ンが「歴史的な海軍の映像」とまで評して  
UFOの“実在”を認めたことはエポックメ  
イキングな出来事だといっているだろう。  
しかし、筆者が気がかりなのは報道官が「U  
FOの侵入」という言葉まで使っている点  
にある。

新型コロナウイルスの感染拡大で大変なこ  
の時期に、ペンタゴンが、あえてUFOの実  
在を公式に認めた意図が“侵入”という言  
葉にある。つまり、次にコロナを超える“  
大事件”が起こる可能性があるということ  
だ。それはUFOを操る“地球外知的生命体  
＝異星人”の大挙飛来ではないのか？ ア

アメリカ政府がその事実を察知したからこ  
そ、今回の発表につながったのではないの  
か、と筆者は勘ぐっている。

実は、漏れ伝わる情報がある。2007年から  
2012年にかけてペンタゴンが実施した極秘  
調査「先端航空宇宙脅威特定計画 (AATI  
P)」で、アメリカの上空や世界各国に出現  
したUFOが人類の脅威となるという有力な  
情報を入手。懸念したペンタゴンは、現在  
も調査を秘密裏に行っているというのだ。  
そして、2019年12月21日に発表された、72  
年ぶりとなる第6の軍「宇宙軍」の発足も  
深くリンクしていると考えられる。領空内  
に侵入してくる異星人のUFOに脅威を感じ  
たトランプ大統領が、異常な速度で発足を  
早めたのだという。

今回のペンタゴンの発表は、UFOの存在を  
公表することで来たる未曾有の大事件＝U  
FOと異星人大挙襲来に対する大衆のショ  
ックを幾分か和らげようとする意図があっ  
たのではないか。UFOの大挙襲来——情報  
どおりなら、われわれはすでに、危機にさら  
されているのだ。

ちなみに、ペンタゴンの発表を受けて河野  
防衛大臣が4月28日に記者会見を開き、「万  
が一パイロットが未確認飛行物体に遭遇し  
た際、映像撮影時の手順をしっかりと定めたい」とUFO問題に前向きな姿勢を取り、自  
衛隊幹部も「領空侵犯があれば迎撃する」  
と豪語している。

さらに防衛相は、5月18日に自衛隊初の宇宙専門部隊「宇宙作戦隊」を発足すると発表。UFO問題を無視してきた日本が反応するとは、いよいよきな臭くなってきた。

これまで何度か噂になっているUFOの地球襲来がいよいよ現実となって、われわれに迫ってきているのか？ 答えはまだ見えてはいないが、今後の成り行きを注視したい。]

(や) [昨年9月14日にわたしがあるところにて講演させていただいた際、以下の発言もいたしました。]

(講演スライドより) [井のなかの蛙、<sup>かはづ</sup>大海を知らず。

情報管理された、地球人。大宇宙を、知らず。

\*

山田 学を含む、われわれ地球人。

宇宙において、〈後進生物〉にすぎない。

\*

2020年代。

人びとの、社会観と自然観と宇宙観、それが、激変するのでないか。

\*

UFOや宇宙人を受けとめる、準備！  
「現実論としての数学を」

「物理学再考」

「生物系と個人」

「原子転換論」

(「理念集」画面内)]

(や) [2020年代は、どうなっていくでありますうか。]